

時田昌瑞副会長が『世界ことわざ比較辞典』（岩波書店）に続き、下記の著書を出版されましたのでご紹介します。

時田昌瑞・著 伊藤hamster・絵
『たぶん一生使わない？ 異国のことわざ 111』
イーストプレス 2021年7月15日
新書版 880円＋税

以下に表紙に関する雑感を記しました。笑読いただければ幸いです。



『たぶん一生使わない？ 異国のことわざ 111』

—表紙カバーに本文を読む—

山口政信

「たぶん一生使わない？」との文字が目飛び込んで、思わず吹き出してしまった。この一文を最初に見たのは包みの宛名シール上だが、ことわざは役に立つ、いや手垢のついた言葉などは…、といった世評の裏の裏をかいて鮮やかである。

裏カバーにはいくつかのことわざが紹介され、その文末には「日本では通じないけど、あなたも使ってみたくなるかも？」とのくすぐりが見られる。この文句の创作者は、きっとことわざ好きの人間通に違いない。

次に表。帯に当る部分に3つの句が載っている。大きく書かれた「両方からくる肉の匂いがハイエナの足を折る」は、挿し絵と照合すると解釈が進みそうだ。想像を掻き立てられたのが「女心はバナナの葉」。思わくが当るか否かはページをめくってからの楽しみとしよう。残るは「酒のお礼に水」。容易に判読できそうな句ゆえに、落とし穴が潜んでいる、と見たがさてどうか。

このように、表紙には人の心裏を見抜いた仕掛けが施されている。さらに末尾には、「一見シュールで、じつは奥深い。日本では絶対に通じない“ことわざ集”」とあるではないか。ここはもう受けて立つしか余地はなさそうである。